

ITERに関する4極会合の結果について

平成11年3月16日

原子力局

1. 日時 平成11年3月10日（水）、11日（木）

2. 場所 カダラッシュ原子力研究所（仏）

3. 出席者

（日本）	今村 努	科学技術庁長官官房審議官
	吉川 允二	日本原子力研究所顧問*
（欧州）	ラオツティ	欧州委員会第12総局長
	フィンチ	欧州委員会第12総局総長
（ロシア）	ベリコフ	ロシア研究センター長**
	ソコロフ	原子力省原子力科学局長
（米国）	デービス	エネルギー省エネルギー研究局総長

（注）*：共同議長、**：議長

4. 結果概要

(1) ITERの実現に向けた検討について

- ① 4極は、特別作業部会（SWG）において具体的な建設計画の検討を開始することに合意した。
- ② 今後のSWGについては、おおよそ2ヶ月に1回程度開催するとともに、第1回会合は5月中旬に東京で開催することとした。また、本年7月のPD会合（ブダペスト会合：我が国のPDは吉川原研顧問）にて中間報告を行い、本年末までに報告書を作成し、理事会に提出することを確認した。
- ③ SWGは、日本及びEUを共同議長（我が国は岸本原研理事、EUはピコウ・マクス・ブランクス物理研究所所長）とし、各極の法律や調達の専門家など実務レベルのメンバー（各極から4名程度）により構成することとした。

(2) 低コストITERに関する設計について

- ①共同中央チーム所長より2つの設計案（従来の設計の約55%のコスト）が提案され、検討の結果、いずれの設計案もコストの低減化に関する技術ガイドラインを満たすものであることを確認した。
- ②EUより、更なるコストの削減を図るための設計案（従来の設計の約40%）についても検討の要請があり、その可能性について検討を行うこととした。EUは、複数の設計オプションを保持することにより、EU域内における建設可能性を高めたいとの意向がある模様。
- ③これらの設計案の絞り込みについては、共同中央チームとホームチームにより構成されるタスクフォース（リーダー：下村共同中央チーム首席副所長）において検討を行うこととした。
- ④4極は、今後の作業計画として、本年7月のPD会合において、タスクフォースより検討状況を確認するとともに、本年中に概要設計を完了させることを確認した。

(3) その他

- ①米国より、本年7月以降も物理R&D及び中心ソライトモデルコイル試験への参加を継続する意向であるとの説明があり、3極はこれを歓迎することを確認した。
- ②EUより、工学設計活動を3極で3年間延長することについての政策判断を間もなく終了する見込みであるとの説明が行われた。

(4) 今後の予定

第1回SWG	5月中旬	東京
第2回SWG	7月下旬	ガルヒンク（独）
PD会合	7月下旬	ガルヒンク（独）
第15回ITER理事会	来年1月中旬	東京